

「編集長がゆく！」

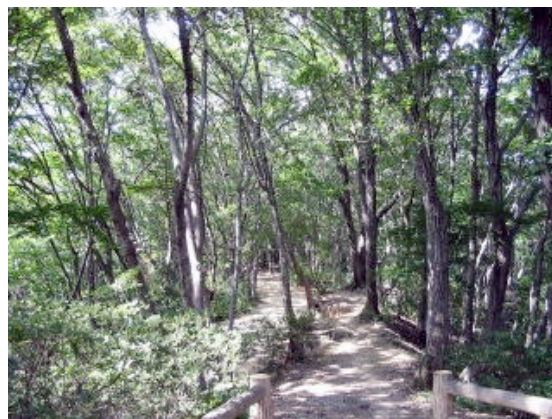
～My favorite forest～

佐藤栄児

青梅にはとても素敵な森がある。それは奥多摩に続くながながい尾根道の一部である。今回は青梅から宮ノ平という隣駅までの尾根道と森を紹介したい。ここは何かあると訪れる僕自身の癒しの場所である。

J R 青梅駅は中央線で立川を經由して青梅線に到着。そこから乗り換えると奥多摩まで導く奥多摩線に乗り入れる。青梅は多摩川を挟み両方を山の尾根に囲まれている町であり、その先に進むと平地はどんどん少なくなり溪谷に続いていく。駅の裏手にはすぐに山があり、歩いて10分もあればその山の尾根道にあがる事が出来る。一つしかない改札を出て左へ3分くらい進むとまた左に曲がる。線路を越える橋を渡り突き当りを左に進むと階段がある。その上には桜の気がたくさん植えられた大きなグラウンドがあり、そこを横切るとさらに尾根に続く階段がある。尾根道は地元の方々の散歩やジョギングコース、週末は都心からのハイキングの方でにぎわっている。所々にベンチがあり、広葉樹も多く植えられている。10月の終わりに出かけた際は紅葉には少し早かったが、季節折々の姿を楽しめるようによく手入れされた道だ。尾根道を進むだけでも楽しいが、僕がお勧めしたいのはグラウンドからのぼり奥多摩方面へ数百メートル進んだ場所から右に階段を下りていくとある「風の子・太陽の子広場」。そこにはちょっとしたバーベキュー広場やアスレチックがあるのだが、イベントと重ならなければ人が少なくとても静かな場所だ。階段を下りると小さな川が流れており、左のほうへ進んでいくとそこには人が営む喧騒は殆ど聞かれてこないとてもゆっくりと心を休める空間が広がっている。杉の木が多い森だがよく手入れされており、天気良ければ木漏れ日がさしとても美しい。湿気が多いのか苔むしている場所が多く、屋久島の森のような神々しさすら感じる事が出来る。僕はそこで佇んで目を閉じる。すると木々の香りを乗せた風を感じることが出来る。静寂の中に自然の様々な営みも聞く事が出来る。水の音や虫の声、鳥のさえずり、風の音……。目を閉じていると聴覚はどん

どん広がりたくさんの種類の音に気付く事が出来る。五感が少しずつほぐれていく。



やがて尾根へと戻る。更に奥多摩方面へと進んでいくと、町のほうとは反対側、進行方向右手に山の連なる風景が開ける。地元に住む友人の少学生の娘さんから教えてもらった「やまびこ」ポイントだ。「ヤッホー」と叫んでみる。するといくつもの声が重なって山々へ響き渡っていくのだ。数えると5回以上は跳ね返っている。はじめは大きな声がうまく出ないが、おなかに集中して声を遠くに飛ばしていくことを意識するとだんだん大きな声が出てくる。「なにしているの？」なんて真似する人も現れる。気が済むまで叫んでみると体が温まり気分がすっきり。来るたびにここで大きな声を出して腹の中に溜まった最近の何となく燃焼し切れなかったものを飛ばして帰ってくるのだ。

そこから更に進んでいくと、所々景色が開けて青梅の町を一望できる。傾斜のあるスギだらけの斜面が多いが、桜をたくさん植えている場所や梅がたくさん植えてある場所など季節ごとの楽しみがあるポイントが点在している。斜面のスギを一気に伐採し、クヌギやコナラなどの木を植え替えている場所もあり、やせ細ったスギの放置林の手入れも少しずつ進んでいることをうかがわせる。天気の良い日はそのような場所にあるベンチに腰掛けて町を眺めながら一休み。気持ちの良い風が斜面を吹き上がってきて少し熱くなった体を冷やしてくれる。更に尾根道を進んでいくとやがて宮ノ平駅方面の看板が出てくる。



そこを左に折れてくだりのルートへ入る。そこはうっそうとしたスギに囲まれた道だが足元は手入れも良く歩きやすい。雰囲気は熊野古道にも似ていてとても荘厳な雰囲気である。のんびり歩くと20分くらいで宮ノ平駅に到着する。無人の駅は都内ではなかなかお目に掛かれないので新鮮。奥多摩線に乗り込みやがて青梅へと戻ってくる。

僕は天気の良い日も悪い日も小雨の振る中も、気分の良い日も悪い日もここを歩いてきた。木に触れて呼吸を合わせると無心になろうとする自分が居るが、そこには必ずといってよいほど雑念が入る。今まではそれを振り払おうとしていた。先日訪れた際にも木に手を当てて目を閉じ、ゆっくりと呼吸をしてみるとやはり何か頭をよぎった。そしてふとそれを受け入れようと思った。ゆったりとした空間と時間の中で現れたそれは、「雑念」ではなくきっと僕が乗り越えるべき課題であり乗り越えることができる問題だ。そう思うことができた。森林とも信頼関係ってあるのかなって思う。色々な季節、色々な天気の中のその姿を知り、少しずつ歩み寄ってきたから見えたそのイメージ。それを大事にしていきたい。ちなみに僕が感じたイメージは触った木からひと言「困った時だけ都合よくくるのな」…確かに。僕は文明に思い切り乗っかって生きています。元氣を取り戻すきっかけをくれる森林や自然にももらった分返すため、僕ができることは何だろう。持ちつ持たれつギブ&テイクの精神が基本かな。まずは一生懸命この森林の中で心身の健康を保つ為の手段をたくさんの人に知ってもらって実践してもらおうことだ。それから年に1本でも2本でも間伐と植樹をしよう。近所の公園の草薺イベントにでもいこうかな。ここの森の手入れがあるなら手伝うのもいいな。動こう。なにか意識を持って。そうしたらあの木から今度はどんなイメージ

が帰ってくるだろう。

